

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	市勢振興功労者表彰事務			事業コード	0009
所属コード	012000	課等名	総務部総務課	係名	総務係
課長名	中村 俊行	担当者名	小原 輝司	内線番号	2632
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	信頼される質の高い行政	コード	8
	施策	市民とともにつくる行政の実現	コード	3
	基本事業	市民参加の推進	コード	3
予算費目名	一般会計 2 款 1 項 1 目 市勢振興功労者表彰事務 (003-01)			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	昭和 30 年度
根拠法令等	盛岡市表彰条例			

(2) 事務事業の概要

公共の福祉と市勢の進展につくした功績が極めて顕著である者を盛岡市表彰条例に基づき、市勢振興功労者として表彰している。昭和 30 年度（第 1 回）に始まり、平成 24 年度は第 58 回目の表彰を行った。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

昭和 30 年度に市の最高の荣誉となる表彰制度として創設された。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

住民ニーズ（価値観）が多様化、複雑化する中、行政だけでは公共的サービスの提供が困難となっており、市民参加による協働のまちづくりの重要性が高まっている。そのため、多くの市民や団体が積極的に公益的な活動に取り組んでいただけるような施策を推進する必要がある。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）対象（誰が，何が対象か）

市の区域内に住所を有する者及び団体

（2）対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 見込み
A 市民	人	298,148	298,853	298,853	299,220	299,220
B 団体	団体	16,916	16,792	16,792	16,459	16,459
C						

（3）24 年度に実施した主な活動・手順

公共の福祉と市勢の進展につくし，功績が極めて顕著で他の模範となる者及び団体を表彰し，広く市民に周知を行った。

（4）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 表彰者（団体）数	人	5	5	5	4	5
B 被表彰者の功績等の広報回数	回	4	4	4	4	4
C 表彰式参列者数	人	130	130	150	130	150

（5）意図（対象をどのように変えるのか）

被表彰者の功績の一端に報いるとともに，それを範として，市民及び団体の公益的活動が促進されることを期待する。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 既表彰者（団体）数	■上げる □下げる □維持	人	309	313	318	317	328
B 表彰候補者（団体）数	□上げる □下げる ■維持	人	9	6	10	7	8
C	□上げる □下げる □維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	1,065	918	1,088	1,051
	⑤その他（ ）	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	1,065	918	1,088	1,051
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	396	396	396	396
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	1,584	1,584	1,584	1,584
計	トータルコスト A+B	千円	2,649	2,502	2,672	2,635
備考						

3 事務事業の評価（See）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 必要性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

結びついている。

理由：市勢振興に貢献した方を表彰し、功績を顕彰する事により、それを模範として市民及び団体の公益的活動が促進され、協働のまちづくりが推進される。

② 市の関与の妥当性

妥当である。

理由：法定事務である。

③ 対象の妥当性

現状で妥当である。

理由：法定事務である。

④ 廃止・休止の影響

影響がある。

その内容：市勢振興のために尽力した方を表彰することは、市民のコンセンサスを得ているものと考えている。廃止した場合、市民や市政に参加する者の信頼を損ねることになり、各界からの批判も予想される。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

昭和 30 年以來、表彰条例に基づき継続して実施してきたもので、市の最高の榮譽となる表彰として定着しており、これ以上成果が上がる余地がない。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

受益機会の適正性については、被表彰者を表彰選考委員会に諮問して決定しており、公平公正である。また、費用負担の適正化については、表彰という性格上、受益者負担を求める性格の事業ではない。

(4) 効率性評価

表彰事務を円滑に行うための必要最低限の人員費で実施している。また、表彰式当日は、他の部署からも応援をいただくが、それについても必要最低限の人員としている。

ただし、市の最高の榮譽となる表彰式であることから、相応の格式を保つ必要もあり、事業費としては、その考えの中で必要最小限の経費で実施している。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 改革改善の方向性

表彰条例に基づき、従来どおり実施していく。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

相応の格式を維持することが、経費削減の中で難しくなっている。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☒ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☐ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

引き続き、市勢に多大な功績を挙げた市勢振興功労者にふさわしい方を表彰する。